

おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

令和4(2022)年
3月号
通巻619号
毎月23日発行
(題字 矢追日聖)

★発行日 令和4年3月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)45-1192
★印刷 大倭印刷
★定価 1部 300円
年間購読料3,500円(送料共)
★郵便振替 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



▶令和2年大和郡山市
芸術祭参加作品(入選)



自画像

桜咲く郡山城址 大和郡山市・みんなの広場「らんまん」 松下広実さんの絵(文・8頁)

昭和42(1967)年3月23日 月次祭話誌

お彼岸にちなんで向上する努力を

法主 矢追日聖(満55歳)

先祖供養も結構だが、
お彼岸の本来の意味とは

今日はかなり吹きすさんでおりますが、暖かい良い日です。お彼岸の中日で、ちようど昼と夜の長さが大体二分するよな日らしいです。

世間でお彼岸の行事は、先祖さんを供養するとか墓参りやお寺参りするとかいうように思われておりますけれども、一つは自然の移り変わり結びつけておるだけであって、別に春の今の時期にそうした宗教的行事をやらなきゃならないというようなものは何もないんです。

彼岸という言葉自体は仏教の般若心経の中から出てきております。先祖供養も結構ですけれども、要するに悟ることが一番大事だという教えなんです。

では何を悟るかという問題になると、五蘊皆空、色が即ち空になる、空と見れば色だとか、そういう哲学的な表現はちょっと分かりにくいと思います。言い換えれば、空とか一切何もないとかいう心境になれという意味なんです。

分かりやすく言えば、迷いや悩みのないような生活の仕方をしていくこと。我々人間には、腹の立つことが出てくるし、物は欲しくなってくるし、貧乏するのは嫌やし、色々な意味においての囚われや欲求が絡んできますから、なかなか観世音菩薩の悟られたみたいにはいかないけれども、出来るだけそういうような心境に近付こうと努力するのが、人間とし

ての一つの向上の道だと思っんです。

他の宗教への差別をなくす

大倭の宗教の場合、形から言いますと日本の古い時代の神道になりますけれども、神道だ仏教だと囚われることもよくないと私は思っんです。皆さん方も宗教を求める気持ちがあるからこそ大倭へ集まって来るんですから、かなり宗教に関心を持っておられると見なさないでいいです。そうした時に、何かの宗教に入って信仰する日本人の態度というものは、かなり誤っていやせんかと思っんですよ。

自分が入っている宗教こそ唯一絶対的な良い宗教だと信じているでしょう？ けれども自分の信仰していない他の宗教が何も悪い宗教じゃない。その人たちの立場から見ればまた一番良い宗教だと信じておられるんですね。だから自分の入っている宗教が一番であって、その他の宗教は良くないんだという心持ちは、宗教の世界では最も忌むべき考え方なんです。

宗教には良いとか悪いとかはないんです。どの宗教であろうと、信じる人から見れば全部が良いんです。まずそういうような広い心構えがないと、信仰する資格がない。自分の信じるものだけが良くて、信じないものはみんなダメだというような心持ち、一つの差別観とか偏見を持って一生懸命に信仰しておる人があるとすれば、それはむしろ邪道で悪魔の宗教なんです。独善排他主義と言っんですね、そういうのは。

少なくとも宗教というのは、我々からちょっと手の届かないところにある、神さんとか仏さんとかの立派な道なんです。それに則って自分でその道を悟っていくとすれば、お互いにまず人間の

向上をはかって、ものの考え方が神さんとか仏さんに近付くのが信仰の態度だと思っます。その時に、「あそこの宗教はいけない。自分の宗教はいんだ」というように信仰しておる人は、本当の神が言うところの絶対平等という気持ちが分からない。だから仏教で言うたら、六道の辻で迷うて無間地獄へ逆さまに落ちていく階級なんです。

太陽は我々の頭の上に輝いて、汚い犬の糞にでも、また綺麗なチューリップや桜の花にでも、どこにでも無差別平等に光と熱を注いでくれている。そういうような心境が、神の心であり仏の心です。小さな利欲とか、勝手に作った善悪とかに囚われて、我が自身を治められない人間のくせして、特に宗教の場合、「あの宗教はいい、この宗教は悪い」というようなことをね、おこがましく批判する資格はないんです。

だから大倭へお出でになる人は、そういうような宗教に対しての偏見、差別していくというような下心を全部なくしてほしい。大倭へ入ることは自由だから誰でも入れるけれども、大倭の宗教が一番いいんだ、他所の宗教はダメなんだというつもりであれば地獄へ真つ逆さまですよ。

他のこと構う必要はない。自分が有難いと思えば有難いと信じたらいい。そして他所を信仰しておる人を見た場合、お互い手を握っていいこうというような大らかさを持った行き方をしてほしい。

知識ではなく味

あなたたちは大倭に何のために来ているかという自分をよく考えてほしいと思っんです。私を持つておる宗教的な知識とか世俗的な知識を求めておるならば、世間には私以上の学識経験者がたくさんおられます。宗教的な深い哲学を知り

たければ、どこの大学にでも大家はおられる。また霊的なことなら心霊科学とか色んな研究をしている方がおられる。何もこの大倭へわざわざ来なくてもいいはずですよ。

ところが知識とか学問以外のものが世の中にはある。これはね、人間一人一人の持ち味というものなんです。大倭教の看板を挙げてまあ嫌々ながらも、こうして自分の使命の道に精進しておる矢追日聖個人の持つ人間の味というのがあります。世界に二人といたない人間味だと思っんです。

これは私だけじゃないんですよ、みんながそうなんです。あなたたち個人個人を見てても、同じ人間の味を持つておるのは世界中で二人とないんです。これを釈尊は、天上天下唯我独尊とおっしゃいましたけれども、増上慢でも自惚れでも何ゆる宗教の教祖が世界中にたくさんおられるかもしれないんですが、私には私だけが持った一つの宿命的なものがある。そういうように一人一人みんなに役目があつて生まれてきているんです。

交換条件の信仰

自分の人間を作り上げて、たとえ一歩でも向上していこうというのが我々の信仰の態度やと思っんです。修養とか人間的な向上を忘れて、ただ手を合わせて神さんに拝めば、その功德によって何かご利益を頂けるといふようなことを考えると、これも地獄行きですよ。

現在、世の中の宗教に帰依して信仰しておる人を見ると、足を運んでお経を上げ、お賽銭を上げて拝む代わりに、神さんからご利益をもらおうという人がたくさんあると思っんです。こういう交換条件を持つた信仰の態度は間違つております。

私は、宗教について良いとか悪いとか言っていない。宗教はどこでも結構、またどの神さんも結構なんだけれども、それを信仰する人たちの心の問題を話しているんですよ。例えば百円のお賽銭で一万円儲けさせてもらおうというような根性で拜んで、もしその欲望の片棒を担いで手伝うような神さん仏さんであれば、これはもう恐らく神さん仏さんじゃないと思う。人間同士の場合でも、百円ちょっとで飯食わして「一万円儲けさせてくれ」なんて、ちょっと無理な話です。ましてや霊界に対してそんなことを平気で言うとしたら、これはもう欲のカン袋が大き過ぎるんです。

天地開闢以来、宇宙には一つの仕組みというものがあつて、それは、大昔からこの世の中の全てが向上している。人間的にも自分自身を称揚して向上しているんですね。そうした時に天地自然は、我々が望まなくても要求しなくても何かしら与えてくれることになってるんですよ。

神仏の心は無条件

天地自然は、どの人間が空気吸い過ぎとるか決して文句言っていない。トンネルの中でも大阪でも岡山でも九州でもどこの場所に行っても、我々が「空気吸わして下さい」と言わなくて、勝手に吸えてるでしょ。これが神さんの心ですよ。余計な願い事はかける必要ないんですよ。それより前に、自分は何かのためにこの世に生まれてきているか、死ぬまでの間に何をやるべきかという悟りを持つことなんです。

人によって皆違うけれど、一人一人そういうような宿命付けられたものがあると私は断言するんです。それを自分なりに自覚して、たとえ間違っていたとしても構わんですよ。例えば「私は学校の先

生をやるんだ」という信念で真面目に進んでいくとします。自分の力で十分やっていける人にはそんなご加護はありませんが、一生懸命だけれども力が足りないとしたら、私がいつも言うように霊の世界には姿のない霊界人がおります。必要な場合には言わなくても助けてくれる、力を貸してくれるようになっていくんです。現界でも一緒にやったり皆が助けてくれるし、力を合わせて一つの仕事をやっていくのと同じなんです。

私も手を合わせて拜むことがよくありますが、神さん仏さんに対して拜むという気持ちではないんです。自分の肉体のお社の中に収まっている心、魂に対して拜んでいるんです。それが自分のご本尊ですから、自分を自分で拜むわけです。

今日よりたとえ一歩でも自分の心が向上することによって、また色々な霊の世界における人々と仲良くしていけるんです。自分の方がゴトンと下で相手が高いと、仲良く交際していけない。やっぱり自分自身が修養し、段々と高くしていくことによって、霊の世界における偉い神さんとも手を繋いで一緒にやっていけるんです。

大体、同じ程度の者が集まりますからね。自分を神さん仏さんに近づけていくことを忘れて、ただお経さえ上げりゃいい、手さえ合わせりゃいい、神さんに縋ったら願いは叶えてくれるというようになんて気持ちで死ぬまで信仰しても、これは地獄行きになってしまうんです。まあ、私の言うことが本当か嘘か、あなたたちが死んだ時に分かりますから、今は別問題にしておきますけれども。

人間像を見習う

大倭へお出でになつていらっしゃる方々はですよ、一つの人間像として今皆さん方の前に立っておる矢追

日聖を真似することです。矢追日聖の肉体の中に入っておるご本尊、この心に近づくべく努力するわけです。霊の世界には色々な人格霊がおられるけれども、ずっと高い人に直接あなたたちがバーンと拜みに行つたってね、波長の桁が違うんです。

肉体を持った矢追日聖を色々な角度から観察研究すれば、同じ人間と人間ですから比較できるはずですよ。そこで自分がまだ未熟だからこうせないかんというように、自分をまず作っていかうとするのがね、大倭へ来る人の初歩的態度、入口ですよ。それで「いや矢追日聖なんか物足らん、わしはもっと奥まで行つて」という時には、私のことなんか忘れて霊界の方と直接に交渉を持っていければ結構なんです。

けれども、まあ初めのうちはまず人間の矢追日聖に近い考え方でいく心境になつてほしい。ということは今言うように、宗教を信仰する時には偏見差別をなくす、どの宗教も平等に見ていく、そして皆が仲良くしていくという気持ちになつてくれることであつて、大倭信仰の第一歩なんです。

最高の教えとは

大倭の宗教の教えぐらいいい教えは絶対ないと言える。その教えとは、「皆仲良くしていく」ということです。争いなく調和を取って、お互いの心と心を信じ合つて手を繋いで、仲良くいくような人間に自分になるということ。この教えはもうどこの世界へ持つて行つたって、これ以上のものは絶対ありえないんですよ。

悩みもなし迷うこともなし皆が仲良くいけるようになっていこうじゃないかと、それが大倭教の世界最高の教えであると言え、あなたたちちょっとおかしいと思うでしょう。他の宗教にもそれ

はある。大倭教の教えであると同時に、世界の宗教の目的でもあるんです。だから何も大倭教が一番いいと言っただけじゃなくて、そういう教え方が世界最高だということなんです。どんな宗教も皆そういうような教え方をしておるんやから、全部世界一なんです。

ところが現実、あなたたちは自分の家庭から始めて友達関係とか、いったい仲良くいけるかどうか、いっぺん胸に手を当ててよく考えてほしいと思うねん。一番簡単な教えだけれども、なかなかそうはなれないから難しい。

人間同士で仲良くないような人間が、ましてや神さん仏さんとめったに仲良くはなれませんよ。なったら不思議なんです。これが私が言いたいことなんです。神さん仏さんは横向いてます。「たのんます」とか、「ご利益ほしい」とか、これはまあ言うてみたら親しい間柄の人間に言うことですよ。そんなことで神さん仏さん拜んだかて、「何を言いに来るんや。こんなところで拜みに来る前に、まず人間同士仲良くしてこい」と必ずあなたたちは突っぱねられているはずなんや。けれども、情けないことに皆それに気付かないんです。

だからして、私はいつも言うんです。「まずあなたたちの家庭とか友達とか身近なところから仲良くしてこい」と。それにはどうすればいいか。今言うように皆が私の心のような状態になってくれたら仲良くいける。私は多くの人と今日まで仲良くしてきております。あなたたちもせめて家族の中から仲良くなって、隣近所とも仲良くなって、「あの人やつたら付き合っても気持ちええな」と、もう誰ともお互いに言い合えるような雰囲気になってほしい。そうすれば頼みに行かなくても、逆に神さん仏さんの方から、「仲

間入りさしてくれ」と、ケツ上げてこっちの方へ出て来る。大倭はそういうところなんです。

私はもう霊界の人と仲良くなってますから、別に「これ頼みます、あれ頼みます」と言わなくて、何かやっている時には向こうの方から、「手伝わしてくれ」と来てくれるんです。そういうような意味であなたたちもね、まず自分を作っていく、向上させていくということが一番大事じゃないかと思うんです。

善人も悪人もない

皆、自分の人間としての悩みとか迷いかいいうようなものを持っています。段々と薄らいでいくようにしても、それはなくならないんです。

けれども、やっぱり表と裏のように善と悪と二つある。人間一人一人本質的には善人も悪人もないんですよ。ただその現れ方が悪の方が多く出ているか善の方が多く出るかという問題だけです。表と裏がひっくり返るように、悪というのが裏へ沈んだら、表へ善が出てくる。善が裏へ沈んだら、悪が表へ出てくる。

私自身はね、今ものすごく善の方が出て、悪の方は沈んどんねん。だから「矢追日聖」という人は、ええ人や」と言うてくれるんやけれどもね。その私でも、人殺しも知っておれば強盗することも知ってるんです。人と喧嘩することも、こうすれば人が怒るやろう、こうしてやったら面白いなということも知っているんです。そういう悪いものを持っているし、やれば出来ますよ。

どんな善人で聖人君子みたいな人でも、戦争のような状況にポンと放り込まれたら人殺しを平気でバサッとやるんですからね。また食う物がなかったら、普段なら見ても嫌やというようなネズミ

であろうがトカゲであろうがカーツと食べるような気になるんですから、人間には皆そんな一面があるんです。私自身にもあるんやけれども、それは裏へ入ってしまったって善の方が表で働くようになっていくわけですよ。

世の中で「あいつは悪い奴や」と言われる人はね、可哀相やけれども悪い方がちょっと表に出過ぎとる。善い方はすつこんどるから、そう言われるんであって、やっぱり皆が神さんの子ですから、お互いに仲良くしようと思ったら出来るはずなんです。また、そういうように自分を向上させていくように錬磨するのが一つの信仰であり、宗教の道に入る一つの必要性だと思うんですね。

だからあなたたちもこうして大倭へ来た以上はね、第一歩として矢追日聖というこの人間を出るだけよく観察して、私の心に近付くようになってほしい。それから段々と向上して矢追日聖を跳び越えてもらったらそれで結構なんです。

そういうような意味において、今日大倭へこうしてお出になった方に、お彼岸にちなんで一つの悟りという話をしたんです。大倭というものを基盤としての悟り方、そういうような点をあなたたちがよく心得てほしいと思うんです。

じゃあこれで終わります。

(文責・編集部)

こ だ ま こ と だ ま

滋賀県大津市 樋口 寛美

『おおやまと』1月号で法主さんの「一番初めに自分を自分で治めること」と、知人の真宗住職さんの言葉「特別な人間でなくなる練習。できるだけ平凡であること」が私の胸で共鳴しました。霊界を見ることも聞くこともできない私には、こんな共鳴が頼りです。

じんずうりきによぜ
「神通力如是」の真意をさぐる

第十八回

大倭教の源流にさかのぼって

第十七回、11月14日の続きとして予告したように、太子と中将姫が登場します。

原文

「吾ハ、奇稲田姫。

太子ヨ、ヨク聞ケ候ヘ。汝ノ前^{サキ}ノ世ハ、吾ガ子トシテ大國主ト生レ、國ツクリノ役目、後ノ世ハ日聖トシテ鷄杜ニ生ヲウケ正法ノ妙法ヲ立テ國ヲ立テナホサン。吾レ太子ヲ守ルタメ変化ノ人ヲ遣ハシテ、ウバトナシ、守リ申シタ。中将姫ハ汝ガキサキニナル者ナレド、コノウバ邪魔立テイタシ、フピンナル者ゾ。後ノ世ニ於テ題目ノ功德力ニヨリ、コノ二人ヲ差遣ハシ、ザンゲナサシメン。ウバソノ罪ニヨリ、肉体モツテオレドソノ性山ノ神ト変シ、行ヲイタサセン。キヤウ吾レノ情^{ナツケ}ニヨリ、中将姫メドウリ許ス。スグニ立チカヘリ、中将姫、亦タノチホドニナガ居イタサセン」

「ワラワハ中将姫。

太子様、オナツカシユウ存ジマスル。日^⑦日ノ題目供養ニヨリ、奇稲田姫命ノミナサケニヨリ今日^{キノウ}コノ日目通りサシ許サ

レテゴザリマス。吾カズカズ^{礼ラシテ、両手ヲツキ}ノ物語リ致シトウハゴザレドモ、神ノ命ナレバオイトマチヨザイ仕ル。亦タノチノ日ニ語り申サン、オサラバー」

十一月十五日 朝、六時半

庭前松林の間より太陽を拜せる時。

「大天照太神ノミ光ハ八紘^{アマヨシヒトヤ}一字ヲテラスナリ。我が日本ノ天皇ハ代代トコシエニ榮エユク」

庭前より大倭神宮拜せる時。

「君ガ代ハ千代ニ八千代ニコトホギテ、八百萬余ノ神等ガ、集ヒ来リテ大倭、鷄杜ヌボコヲ立テル時ゾ来タレリ」

同日 午後十時、於鳥見庄山

隆蔵(日聖の父)、日妙(日聖の母)、サダ(輪孺香の義母)、政一(隆蔵の弟)、久子(政一の妻)、京子(隆蔵の妹)座にあり、日聖、輪孺香。

「倭姫、オン前二候、拙ナキワザニテ候ヒシガミ神楽ソウシ申サン。シバシノ間オン前ケガシ奉リ候」

「我が日本ノ天皇^{スミミマ}ノ、オンヨハヒ、幾千代ノノチマデモ、代代トコシエニ壽ギマツル」題目、。

倭姫「今日ノ日、吾ガ母ノミ前デ神楽ソウシ奉リ、コノ倭姫オナツカシユウ存ジ奉ル。拙ナキワザニテ候ヘドモ、ナントゾ終リマデ見奉リ下サイマセ。倭姫心ノ限リ舞ヒオサママツル。題目、。(神楽ヲソウス)」

「ナツカシキ母ノミマエデ、ミ神楽ヲ奏シ奉ル。今日ノ日、ウレシキキキワミデアルゾイナ」

「拙ナキワザニテ、御前ケガシ奉リ、オ許シアレ。オイトマチヨザイ仕ル。

日妙ノ前ニ向キナオリ
オナツカシキ母上、拙ナキワザヲ見セ、オハズカシク存ジマス。長ラクヨクヨク御覽下サレ、厚ク御礼申シ奉リマス。サラバオイトマ仕リマスル」

附言 この親子の対面は輪孺香の前身は倭姫、日妙は時の倭姫の実母なり。この時代の霊と霊の対面なり。日妙神通力により此の実なるを証す。日妙涙を流したり。

註釈

①太子ヨ

ここで奇稲田姫が呼びかけられている太子とは聖徳太子のことと思われる。

その理由は後ほど述べるが、矢追日聖法主は自分の前世は九代前まで分かっている、と言われたことがある。様々な方(固有霊)とのつながり(霊統)があるのだが、ここで言われている大國主命と太子(聖徳太子)もその中の二人であると言われている。

そしてここでは奇稻田姫命がこの霊統を引かれている法主に対して、語りかけておられるのであろう。

また大國主命は聖徳太子より前の世の方で、その後にもまた日聖法主がお生まれになっているので、本文のように話されている。この各々が固有霊でありながら「日の聖」(聖歌「くにも」と「第2節」と呼ばれる本霊とつながりを持っておられると考えられる。

次に「太子ヨ」と呼ばれる方が何故「聖徳太子」を指すのかについて言及したい。

その一つには、法主と聖徳太子のつながりの深さがあり、法主が常日頃、「私の宗教的な部分は聖徳太子がはたらいている」とか「私の宗教的指導は聖徳太子がされている」と言われていたことがある。

その例として過去の『おおやまと』紙から記事を探してみよう。

《大倭神宮存亡の難事を越えて、同年9月6日に解体の造営物一切が復活されました。この復元作業の時、聖徳太子より示された中心の一に對する十六枢機の原理をもとに現在の磐座の石組みが完成されました。》(平成2年3月号「おおやまとあちらこちら 大倭神宮より」)

また法主のご発言の中にも《宗教法人は宗教団体の名称ではありませんけれども、霊界から団体は絶対つくるなど私におっしゃるんです。これをおっしゃるのは、聖徳太子さんなんです。

だから大倭教は団体をつくらない宗教法人なんです。宗教法人とは私は認めません。》(平成6年4月号法話より)

さらに、《まあ、私も割合霊界と通じる面があるんで、大倭のここでも聖徳太子は活躍されておりますがね。まあそんなことは気ががいの世界やけどね。わたしは不思議と太子に一番惹かれるんです。》(平成2年3月号「対談 日本のお役目について」より)

また「日常生母さんと法主の会話の中では聖徳太子のことを『太子さん(タイツさん)』と呼ばれていた。(杉本)とのエピソードもある。最後に次の11月15日分の「神通力如是」に載せる法主自身の「附言」にも「太子ハ矢追日聖ナリ」と明確に書かれていることも記しておく。

②大國主

令和3年9月号「神通力如是」第十五号註釈

④参照。

③ウバトナシ

乳母とは、母に代わって子に乳をのませ、また養育する女。(岩波書店『広辞苑』による) ④中将姫

中将姫の物語は一般的には次のように理解されている。

《奈良当麻寺に伝わる曼荼羅を織つたとされる伝説上の女性。横佩の大臣・藤原豊成の娘。天平年間(729〜749)当麻寺に入山し修行に励んだ姫は、その徳により仏に会い、一晚のうちに蓮華の糸で曼荼羅を織りあげ、女人の身ながら極楽往生したと伝えられる。

姫の出家の動機を後妻による継子虐待の物語とした歌舞伎、浄瑠璃、歌曲などが知られる。》(小学館『日本国語大辞典』による) 中将姫が聖徳太子の妃になるという語りが続

くが、一見するとこの二人が生きた時代は全く違っていると感じられる。

⑤フビンナル者ゾ

あわれむべきこと。かわいそうなこと。(岩波書店『広辞苑』による)

⑥スゲニ立チ力ヘリ

すぐにもとの霊界に戻って。

⑦日日ノ題目供養ニヨリ

中将姫自身が毎日題目を唱えて行った供養。あるいは「神通力如是」の中で、度々皆によって唱えられる題目の供養によって。

⑧庭前

朝の6時半を考えれば庄山(矢追家の庭)と思われる。

現代語訳

11月14日 午前9時 鳥見庄山において

神通力如是 第十七回(原文2月号分)

倭姫「私は倭姫、奇稻田姫様の傍らに控えさせていただきます。」

この庄山(矢追家)の裏山にたむろしている霊界の者たちよ。

今朝からお前たちに言い聞かせたのにまだこの家に寄って来るか。立ち去りなさい。お前たちの霊位が上がる修行をしたいのなら礼儀をもってここに来なさい。無礼者、この場から下がりにさい。下がれ。けがれた者ども。お前(集団霊の司)が宇宙真理にかなう題目の言霊により心に供養を受け、修行を終えたその時には大倭霊界の末席に加えて、私と共に現界に現してやる。今はまだまだお前たちの出て来る時ではない。お前がどの様に倭姫をだまそうとしても、姫の

信念は変わらない。今は退散しなさい。私も題目の言霊の力によって共に大倭の霊界のような和やかで安穩な大倭日高見国を生みだす大仕事を行う。お前も共に力となってくれ。この山の守護神として祀ってやるので題目を唱えなさい。分かるか山の神よ。今は元の所に戻りなさい、帰りなさい」

倭姫「倭姫が奇稲田姫命様に申し上げます。この裏山にいる邪霊たちは、正しき法を世に出す邪魔をしますので、私の独断ですが邪霊たちを退散させました。」

少しの時間でしたが、お聞き苦しい言葉をお聞かせいたし、深くお詫び申し上げます。つたない舞ですが神楽を奏します」題目、神楽舞。

倭姫「スメラミコトのおられる世は、長い年月にわたって、おめでたいことです。」

多くの島々からできている日本を治めておられる代々のスメラミコトの寿命をお祝いたします。スメラミコトたちのおられる所に育っている竹のように色鮮やかに栄えていくでしょう」

倭姫「霊界の邪悪な者たちは、この日本のことを、何と分かっていないことだろう。無数の上位の霊界人が守っておられる尊い国。この国をどのようにして奪い取ろうとしても、それは無理。宇宙の真理を守る妙法の剣を持ち大倭神宮に鎮まっておられるスサノオノミコト。数えきれない霊界の方々と共に真理の剣を持つスサノオノミコトが出現されるでしょう。」

倭姫など霊界にある姫たちの霊界人たちは奇稲田姫命様と共に大倭太加天腹にあつて、悪魔怨敵退散を願う題目を唱えるのです。悪魔の働きをしている霊たちよ、さわがず鎮まりなさい」

神通力如是 第十八回(原文今月号分)

奇稲田姫「私は奇稲田姫。太子よ、よくお聞きな

さい。あなたは前の世^{まへよ}では私の子となって生まれ、大國主となり国づくりの役目をした。後の世では日聖として大倭鷄杜(大倭神宮)で生まれ、宇宙の大真理にもとづき、大倭太加天腹で計画された世直しのためのお役目である。

私は(聖徳)太子であるあなたが小さな時から、あなたの守護のため、しかるべき人をあなたのそばにおいて乳母とした。中将姫は太子の妃となるべき人であつたけれども、この太子の乳母は二人の婚約関係を妨げた。

中将姫は可哀想な娘であつた。この太子との婚約破綻の姫の人生の終焉。その後は、題目の持つ力によって、乳母と婚約破綻の姫を現世に転生させて、人の道にはずれた乳母の心根、そして恨む心を持ったであろう姫の心根を懺悔によって浄化、清めさせることとする。

今、その乳母は肉体のある現世に転生しているが、過去世の罪ある行いにより(詳しくは後に出てきます)その心根は山の神(十七回の註釈文②を参照)のようになっているので、その心を清めるため修行をさせる。

今日私の情けをもつて中将姫を太子と再会することを許すので、後で再会の時間を作つてやるから今は大倭太加天腹(大倭の霊界)の自分の座に戻りなさい」

中将姫「私は中将姫、太子様お懐かしゅうございます。」

日々の題目(第一回神通力如是、原文「日々ノ御宣託」に始まる題目)のお蔭をもちまして、奇稲田姫のお許しを得て、太子様と再会できました。私には色々太子様にお話ししたいことがあります。今はまだその時ではないようですから、失礼いたします。後日にお話しいたします。おさらば……」

11月15日 朝6時半

庄山(矢追家)の庭前の松林の間からお日様に挨拶した時、

倭姫「大天照大神(太陽、お日様)の光は世界全部を平等に照らしてくれている。日本のスメラミコトは代々繋がり栄えていく」

庭前から大倭神宮にご挨拶した時、

倭姫「スメラミコトのおられる世はいついつまでもありがたい。大倭の無数の霊人たちが集合し、世界立て直しの事業が始まる時が来たのだ」

同日(15日)午後10時、庄山(矢追家)にて

隆蔵(法主父)、日妙(法主母)、サダ(輪孺香の義母)、政一(隆蔵弟)、久子(政一妻)、京子(隆蔵妹)そして法主と輪孺香(法主妻)がいる。

倭姫「倭姫、皆様の前でつたない舞ですが、暫くの間神楽舞を舞わせて頂きます」「我が日本のスメラミコトの御世の年月を、これからもずっと先まで代々にわたってお祝いを申し上げます題目。

倭姫「今日ここで、私倭姫の母の前で神楽を舞わせて頂くこと、私は本当に懐かしい限りです。つたない舞ですが、どうか終わるまでご覧下さい。私は精一杯舞わせて頂きます。題目」

倭姫「懐かしい母の前でみ神楽を舞えるのは、限りない喜びでございます」

倭姫「つたない舞でしたが、お許しください。懐かしい母上さま、つたない舞をお見せして、恥ずかしいです。長い時間ご覧頂きお礼申し上げます。これで失礼いたします」

附言 この親子の対面は輪孺香(妙月)の前世が倭姫であり、日妙は前世で倭姫の実母であった。前世の時のこの母子の霊と霊がまた、現世では姑と嫁として対面している。この事は日妙(法主母)の神通力により実証。日妙は涙を流された。

あじさい日誌

2月9日 午後1時40分から法主奥津城でご挨拶の後、2時から大本宮拝殿において法主帰幽祭が行われました。平成8年に帰幽されたから26年目です。コロナ禍の折ながら久しぶりのお参りの方もあり、月次祭よりやや多めに席が埋まりました。

この日は昭和63年12月23日(法主満77歳)の降誕祭の映像記録を見ました。平成元年2月号『とおやまと』に「大倭45歳の春に」として掲載分。

映像が祭典前から始まっていて、今はもう姿のない方々がたくさん登場。隣で新しい(＝現在の)拝殿建設中で、法話には槌音が混じっていました。

2月15日 大倭神宮月次祭。2月23日 午後先ず大倭神宮で申孝祭、続いて2時から大本宮拝殿で月次祭が行われました。

この日は昭和40年2月23日の申孝祭の法話をお聞きしました。平成24年2月号『とおやまと』に「宗教的な調和の精神を掴む」として掲載分です。

3月5日 午後、交流の家でFIWC関西の定例委員会。

3月6日 大倭神宮月次祭。午前9時から大倭墓地清掃。

大倭安宿苑では(菅原園)

3月3日 コロナ対策で未だ集

まらないので、女性限定でひな祭り加工した写真を撮影。

2月17日 コロナ等への配慮で取り分けた状態で寄せ鍋の昼食。おかわりもオーケー。

(長曾根寮)

2月9日(特養) 3階フロアで2月のカレンダー作り。節分のイラストで、「恵方巻食べたいなあ」「小さい頃、よく豆まきしたなあ」とおしゃべりがはずみました。

2月16日(デイ) 未使用靴下でお雛様の作品作り。

(茂毛路園)

2月14日 おやつ焼き菓子作り、女性から男性へ手渡ししてバレンタインデーの雰囲気。

(八重垣園)

3月3日 お雛様の日で昼食はちらし寿司でした。

波紋

今回久しぶりに編集部から何か書いてくれませんかと依頼を受けました。簡単に引き受けたものの、いざとなると頭の中に何も浮かんできません。勝手にしゃべらすといくらでもしゃべるのに、いざ文字にするとと思うと難しいものです。人に伝えることの難しさについて改めて考えさせられました。

私はまだ20歳前後だったと思います。法主様から「お前は浜子の子やからしゃべることはいくらでもできるやろ。しかし人の話が聞けるようになるのが大切やで、話し上手というのは聞き上手なんや」と教えてもらったことがあります。

確かに法主さんは法話では毎回その時の気の動きで約30分お話しされていました。相談に見えられた方達には黙って傾きながら話を聞いておられることが多かったように思います。

ある時、雑談で法主さんに「相談に来られた方は皆納得して帰られますね」というような投げかけがありました。法主さんから返ってきた言葉は「自分で話すだけ話(離)したら、自分で納得して帰っていかはる」だったと思います。

霊界絡みの話は私は分かりませんが、現界での心の世界は、ため込まずに話(離)すことで、自分の心の中に勝手に腑に落ちるのではないかと、その時思いました。

令和4年1月号の法主さんの法話の中に、「毎回こうして話しているが虚しくなる」というようなくだりがあったように思います。相手に伝えようとするほど言葉数が増え、かえって相手に伝わらないということを思い知らされることがあります。

自分の本意というのを伝えるには、やはり相手の話を聞くこと。からなんだと自分に納得させました。(のん)

表紙絵について

松下広実さんは、創作活動に邁進と、次のようなお知らせを頂きました。

松下広実作品展

森羅万象との愉快な対話

場所：ざやろりかふえ

「らんまん」

コーヒ一杯2000円

日時：令和4年4月4～22日

午前10時～午後3時

(土・日休み)

わたし松下広実のこと

昭和30年8月、長野県南木曾、中山道・妻籠の商家に生まれ、

野や山、河原から拾ってきた石や木切れなどの宝物に囲まれながら、一心に絵を描く少年でした。

10代のころには、親の理解のもと中津川まで出かけて本格的に油彩を学んでいました。だげど描くテーマを求め、募る思いの中、家人に知らせず一人イーゼルとキャンバスを持って絵画研鑽の旅にでかけました。廃屋のホテルを根城に、また公園の片隅にと繰り返される旅も、ある時、すべての絵画道具を失なうて、奈良公園の浮見堂で終えるのですが、そんな中、「らんまん」と出会い、今は、午前中は近くの大和民俗公園をフィー

ルドに池と古民家と樹を描き続け、午後は木片に生き物たちを描くなど、絵画三昧の暮らしをしています。

どうぞ皆さまお越しください。充分なコロナ対策を実施します。

大和郡山市千日町25-4

☎0743(53)7822

あんない

*月次祭(大倭神宮)

4月6日(水) 午後2時より大倭神宮にて。

*須佐緒祭(大本宮)

4月8日(金) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。恒例の園遊会は中止とします。

須佐緒祭とは、宇宙万物一切の顕幽(けんゆう)画面における一体のものとたる須佐(すさ)結びの緒に感謝をするお祭りです。

*大倭会主催祝会

4月10日(日) 中止とします。

*箭負祭(大倭神宮)

4月15日(金) 午後2時より大倭神宮にて。

箭負祭とは、皇祖天神の鎮ります登美の神祭備(大倭神宮)の霊威を法主日聖大恩師の遠祖(箭負氏)が代々祭祀し、神仕えしてきたことを記念するお祭りです。

*月次祭(大本宮)

4月23日(土) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。